

(様式3)

自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>理念の中に「普通の生活、心豊かな生活、自立へとつながるように心を込めた支援を行う」とある。違和感の無い家庭的な雰囲気の中で過ごして頂けるよう努力している。</p>	<p>月に3回～4回、近くの店に食事に出たり、買い物を楽しんだりして頂いている。又、家族の協力を得、外に出かける機会を作っていただいている。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎日の生活の中で、理念を意識しながらケアに携わっている。入浴、排泄、食事の中で尊敬と敬意の気持ちを持つように努めている。</p>	<p>毎朝、申し送り時に理念を読む事により、職員が理念を共有できるようにしている。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族会、運営推進会議を2ヶ月に1度開催し、地域の方、家族の方の中でホームの運営や行事、方針を伝える機会を作っている。</p>	<p>グループホームで行われる行事には、地域の方の参加を呼びかけている。又、地域の行事には、声をかけて頂き、参加できるように取り組んでいきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>入居者がホームの中だけで過ごさず、外出の機会を作り、孤立しないようにしている。</p>	<p>困難な状況である。 近隣訪問、集会やイベントの参加等の機会が持てるよう自治会と連携していきたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>入居者、家族と、相談、協力して外出行事等、機会を作っている。(ホーム主催の花見、外食、遠足、買い物、ドライブ)</p>	<p>入居者は、戸外では、特に歩行が不安定であり、車椅子使用の方がほとんどである。安全に注意はしているが、地域との連携、働きかけは難しい。外出では近所の方と会った際、気軽に会話を楽しむが、自治会行事等は、なかなか参加できない現状である。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入居予定の方がおられた際には、随時、見学して頂いている。(基本的に2Fを見て頂いている。)		認知症についての理解を深めていくための教室開催等を行っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	第三者評価の公開。誰もが閲覧する事が出来、その事により職員の業務に対する意識向上に努めている。		多くの項目について、職員間で話し合い、業務に取り組んでいる。(外出行事、研修等)
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催。定期的に家族会を開き、その場で日常の様子を具体的に伝えている。家族からの苦情、意見には速やかに対策案を検討し、回答し、サービスの向上に努めている。		運営推進会議には、現在1名の職員が参加しているが、今後、誰でも参加でき、家族とも自由に意見の交換ができるようにしていきたい。不定期であるが、「たより」の発行、写真の閲覧をしている。
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	あんしんすこやかセンターと協力し、市町には、ボランティアの協力を要請している。		1ヶ月に1度、区役所内、ボランティアセンターの協力を得、入居者に催しを楽しんでもらっている。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	契約書について分かりやすく示し、入居者及び家族にも説明し、同意を得ている。		今後、勉強会や研修で学んでいきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム内での虐待は無い。		市の指導もあり、高齢者虐待防止、身体拘束の廃止について、全職員に研修の参加を要請、事例を含め勉強した。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	見学時、面接時、入居時、退居時等、文章と口頭での説明を充分に行い、了承を得ている。	問題が生じた際に応じて（入院時、特養への申し込み時）そのタイミングにおいても再度、説明をしている。
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	第三者に苦情を伝える機会を設け、玄関には公的機関への苦情を受け付けるポストを設置している。苦情があった場合、内容を検討し、対応策を考え、早期に対応している。	苦情ポストに入る事は、ほとんど無く、直接家族から意見を聞く、又は、家族会にて意見を聞いている。
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	ご家族の訪問時には、可能な限り、日常生活の様子を伝えている。必要な際には、電話にての報告をしている。異動は、すぐに解る様、写真を各玄関に張っている。	行事などは、たよりにても伝えている。電話でも、お伝えしたり、勿論、来訪時にもお伝えする。スタッフの顔写真、名前を各フロア玄関に貼り、すぐわかる様にしている。
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	苦情ポスト、家族会、運営推進会議等、いろんな場面において、意見や質問、不満を伺うように努めている。	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	必要に応じ、職員との面談の場を設け、意見や提案に耳を傾けている。	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	入居者の体調や、精神的な状態に応じ、配置人数や、業務調整を行っている。	職員の増員や定着に努めている。業務に早く慣れてもらうよう、マニュアルを配布している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者の状態や、生活の流れを支援する為に、これに即した職員の勤務ローテーションを組んでいる。		異動月の前月より、週に2回程の配置換えをして、慣れる様に努めている。
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの段階に応じた研修を受講し、その内容を全ての職員が周知している。必要に応じ、外部への研修講習も受講している。		研修後、報告書を提出し、職員全員が回覧するという仕組みを取っている。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設へ訪問し、取り組んでいる。レクを見学させてもらった。		まだ頻度も少なく、今後、他施設との交流を深め、良い所は、どんどんと取り入れたい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	業務上の悩みやストレスは解消できるように努めている。		タイミングを見計らい、業務上の悩みを話せる場をつくっている。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	業務上の担当があり、その個人の能力に応じた研修、講義に参加してもらい、他の職員に内容を発表してもらおう。		行事、服薬管理、モニタリングに担当を設け、職員が責任感を持ち、業務に努めている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご本人からの訴えは、傾聴し、必要に応じ記録に残している。不安な事への軽減や解決にはケアカンファレンス等で反映している。</p>	<p>面接時から、ご入居後1ヶ月までの間、気づきシートを作成し情報の収集をはかっている。カンファレンスを初期(1ヶ月)3回開催し、職員は情報を周知できるようにしている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面接時、入所時には、聞き取り調査や話し合いを重ね、要求には可能な限り応じ、不安には軽減できるよう対応している。</p>	<p>家族の都合にも臨機応変に対応している。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご家族と十分に話し合い、納得して頂き、ケアマネージャー、現場職員と情報交換をしている。</p>	<p>家族に協力をして頂きながら、入居者の不安を少しでも和らげる様に支援している。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>個人の趣味や出来る事に合わせて役割りや楽しみ事を持って頂ける様に、ご家族、ご本人と相談しながら支援していく。</p>	<p>面接時や聞き取り時に、ご本人の好みを教えて頂き、1日の流れの中、違和感のないようにスムーズにサービスとして取り入れる。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>ホーム内で入居者一人一人が楽しみごとや出番を見出せるように場面作りの支援を行っている。</p>	<p>食事作りでは、切って頂いたり、味をみて頂いたり、生け花や昔のならわし事や習慣等、学ばせて頂いている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	季節を通し、いろんな行事を行っている。家族の参加、協力を常呼びかけ、入居者の表情や様子を感じてもらい入居者を支えている。		レクやストレッチ体操時には、家族も参加して頂いている。
29	利用者との家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者が手紙や電話を日常的に利用できるようにプライバシーに配慮しつつ支援している。家族の来訪時は居室にてゆっくりと過ごして頂く。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その地域や、入居者に馴染みの季節の習わし等を入居者に主体になってもらいながら家族的な雰囲気で行っている（お正月、節句、お祭り等）。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い入居者同士と一緒に過ごせる様に職員が配慮している。孤立やコミュニケーションが困難な方には職員が仲介するようにしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居に至っても、自由に来訪していただける様な環境作りに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>面接時、入居時等で十分な聞き取りをしており、希望は可能な限り叶える様に努力している。意志は尊重している。</p>	<p>生活歴を職員全員が周知しており、家族の協力も得ながらご本人の思いに沿っている。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居者個人の若い頃から、今日に至るまでの生活歴を情報とし収集。アセスメント、課題を明らかにするようにしている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>面接時に知り得た情報は元より、家族や本人からもいろんな場面で聞き、新しい情報や発見も日々の生活の中から見出せる様に努めている。</p>	<p>気づきシートを作成し、活用。各職員が気づいた事等をすぐに記録として残している。</p>
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>定期的カンファレンスを開催。気づいた事等を発表している。</p>	<p>ケアマネージャーが中心となり、各入居者の担当者が情報を収集し、家族、本人の意見や希望も取り入れ、スタッフで話し合う。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な見直しをしている。状態の変化があれば、直ぐに対応している。</p>	<p>排泄や食事、歩行など対応の変化に合わせて、新しい介護計画を立てている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	変化の記録は細やかにしている。		生活日誌、管理日誌等に詳しく記録している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	心身の変化に応じて、気軽に相談できる医療機関等を確保している。通所サービスを利用されている方とも行き来がある。		<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護師に相談をしたり、アドバイスを受け、必要に応じ、医療機関への受診をしている。 ・行事等は合同でしている。(入所、通所)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	他の施設、ボランティアへの働きかけをして、協力を得ている。		警察や消防、民生委員等は、今後の課題にしたい。
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	必要に応じ、他のサービスを利用している。		福祉用具より、ベッドや車椅子を購入したり、PTの指導により歩行訓練等をしている。
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	できていない。		2ヶ月に1度、あんしんすこやかセンターの方との話し合いの場はあるが、具体的な活動に至っていない。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	心身の変化異常発生時に、気軽に相談できる医療関係者を確保している。		訪問看護ステーションと連携している。毎日(月～金)訪問があり、土、日や夜間でも対応できる体制をとっている。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけの医療機関に「物忘れ外来」があり、定期的に受診している。		看護師、医師の指導や判断のもと、受診や検査をする事もある。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションと連携しており、看護師が日常の健康管理やスキンケア等に積極的である。		毎日(月～金)訪問があり、土、日や夜間でも対応できる体制をとっている。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合、経過や治療の方針についてソーシャルワーカーと連絡をとりあっている。退院に向けた話についても同様である。		担当看護師には、経過や退院後の注意点等を教えてもらっている。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度対応、終末期ケア対応指針に同意していただいている。		個々により、ケースが異なるが、幾度となく家族との話し合いをしている。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	訪問看護ステーションとの連携により、入居者の急変、重度化、終末期などに対応できる体制を整えている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他施設へ移る際には、ご家族、本人の承諾を得、十分な情報を交換し、少しでも早く慣れる事に努める。他施設からでも同様である。		他施設の方とも面接を重ねている。
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、常に入居者一人一人の人格を尊重し、言葉使いは気をつけている。記録の際には、インシヤルを使用している。		言葉かけや対応は、失礼がないように努めている。気になる言葉かけには、その場で注意する。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員は、入居者一人一人の思いを受け止め、できる限り、その思いに応えられるように努めている。		希望がある様な場合、十分に話しを聞き、迷っている場面では、その方に合った方を押しつける事なく選んで頂く。又、困難な場合では家族の協力を得る。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、職員側の都合で業務を進めていく態度ではなく、入居者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。		意志疎通が困難な方や、リハビリ等の拒否がみられる方もおられる。タイミングを計らい、声かけに十分に気をつけている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	服装に関しては、家族の協力を得、入居者の好みを尊重している。理美容では、訪問があり、入居者は利用している。		なるべく、入居者と一緒に買い物に行っている。カタログも利用し、一緒に選ぶ楽しみの時間もとっている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は、茶碗や湯のみ、箸等、馴染みの又は家族的な食器を使用しており、準備、調理、片付けにおいても個々の力に合わせ、職員と一緒にしている。		食事は、職員が入居者と同じ時間に摂っており、家庭的な雰囲気の中で楽しんでいる。
55 利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者一人一人に合わせ、飲み物等は特に好みや状況に合わせて提供している。		お酒、たばこを飲用されている方はいない。
56 気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者一人一人の排泄パターンをチェック表で把握でき、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。誘導により布の下着の着用を心掛けている。		尿失禁のタイミングをつかみ、前もっての声かけ誘導を心掛けている。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者のその日の体調を重視している。表情や食欲等を考慮し、入浴習慣を考えながら無理のない様に安全にゆっくりとして頂けるようにしている。		入浴が不可能な日は、足浴をして頂いている。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	それぞれの習慣に合わせて、テレビを観ていただいたり、お茶を飲んでもらったり、睡眠状態の把握をしている。不眠の方には、ゆっくりと会話を楽しんで頂いている。		フロアのソファに座り、傾眠される方が多い。(居室では、覚醒してしまう)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の出番が見出せるよう、場面作りの支援をしている。少し落ち着かない様子の方には、散歩等で気分転換をしている。		一人の時間、何もしない時間も必要としながら、散歩やお手伝いにも参加して頂いている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとして、ご家族より、お金を預かっている。買い物に行く際には使っている。		パン販売の日を楽しみにしている。お財布を持つ事の安心感につなげている。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	喫茶店、ドライブ、外食等、戸外へは計画をたてて出かけている。		外食がやや困難な方には、ドライブという形で戸外に出ている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	クラス会に行っている。遠足等も企画しており、家族との外出を楽しみにしている。		天候やスタッフの配置により、常に戸外に出る事を意識している。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用されている方がいる。又、ハガキや手紙等をやり取りされている。		ハガキをやりとりしておられる方がいる。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも来訪して頂ける様に、お誘いをしている。ホームへの家族の来訪も自由である。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束」は行わない。研修を開催し、職員は理解している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	やむを得ず鍵をかける場合は、その根拠が明白で、その理由を家族に説明している。		
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に入居者を見守りやすい場所に居て、気分を損ねないように、さり気なく、所在を把握しながら安全に配慮している。		歩行、座位、立位の面で不安定な方がみられるが、職員は声をかけ合い、自分の所在や行動を知らせている。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者一人一人の貴重品等は、事務所にて、お預かりしている。危険物に関しては、状態に応じ事務所にて預かり、使用する際はスタッフが見守る。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故発生時には、事故報告書を作成し、原因、改善点を話し合い、再発防止の工夫をしている。消防訓練も実施しており、火災についての知識を得ている。		研修会を利用し、勉強している。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変、異変時に対応するマニュアルを作成している。研修を開き、職員には初期対応の勉強をしている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	簡易スプリンクラーが設置されている。昼間、夜間を想定した消防訓練を実施している。		地域の人々への協力の呼びかけは、今後の課題としたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	起こりうるリスクについて、その場面に応じた説明を事前にするよう心掛け、承諾を得ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	高血圧や糖尿病等の持病がある方が多い。入浴時だけでなく、様子や表情に変化がある時には、バイタルの測定、訪看への連絡、情報の共有をし、対応をしている。		糖尿病の方への対応には、看護師、栄養士とも相談し、指導をうけている。
74	服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の用法、用量を守り支援している。処方箋を日誌に挟んでおり、疑問が生じたり解らなくなった際には、すぐに見れる様にしている。		薬の用法や用量はもちろんだが、薬の色、形、状態も把握できるようにカードを作っている。
75	便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分を出来るだけ多く摂って頂ける様に努力している。朝食にはヨーグルトや果物等を取り入れている。歩行訓練、散歩も出来る限りしていただいている。		散歩、気分転換も大事にしている。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は、うがいをして頂き、食べカスが残らないようにしている。眠前はポリデント液に義歯をつけている。歯ブラシを使い磨いて頂いている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取表を使用しており、職員は体調や排泄状態をみながら、脱水や便秘にならないように配慮している。体重は月に1回、計測しており、著しい増加や減少では、看護師、栄養士の指導をうけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	入所時には、健康診断でチェックしている。手洗い、うがい、清潔保持に努めている。換気、気温、湿度の調整も心掛けている。		MRSA、疥癬については、発生事例がない。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、包丁、布巾は、夜間帯に、毎日消毒している。食器やその他の調理器具も常に消毒を心掛けている。食材は担当者がおり、新鮮な食材を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の外周りやベランダを入居者が楽しんだり、活動できるように活かしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾るようにしている。また、行事やホーム内の雰囲気にも生活感や季節感を出し、居心地よく過ごせるように工夫している。		入居者の方が製作したものを飾り、満足感、達成感を得て頂いている。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中に、テーブルを幾つか置き、2、3人の方で話が出来るようにしている。居室で過ごされる方もあり、思い思いにさせていただいている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暮らしやすいように、落ち着けるようにと家族と相談し、使い慣れた家具の持ち込み、好みのもを持って来て頂いている。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室、トイレ、風呂場、台所と換気設備が整っている。温度計を気にしながら外気温との差には十分に気をつけている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要と思われる箇所に手すりがある。(廊下、トイレ、浴室)		
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。		家族の協力、ご本人の好みを合わせ、事故のないよう動線にも配慮している。
87 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんで、活動できるように活かしている	戸外の行事を外周りでする事がある。(花火大会、お祭り)気分転換に屋上に散歩に行く場合もある。		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・「看取り」 昨年ホームでの看取りが2例あります。これは、家族と全職員、医療が協力し、情報を共有できて、成し遂げられたと思います。今後も家人の希望があれば、続けていきたい。
- ・「研修」 施設内での研修を充実したいと思っています。年間計画も出ていますが、専門知識を持った方に来て頂き、職員がより一層の専門性を高めたい。
- ・「学習療法」 H21年5月に取り入れました(希望家人様)。週に2～3回のペースで無理なく楽しく学ぶ機会を作りたい。